

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会 長 天野 博司
幹 事 藤井 紀子
会報委員長 橘 英樹

お知らせ

9月のプログラム

- 5 (No.1)-客話
- 12 (No.2)-新入会員歓迎会
- 19 (No.3)-クラブフォーラム

ニコニコBOX;

よいことがありました
秋山憲夫君
GB野球大会お疲れ様でした
稲田さんはじめお手伝い頂いた
皆様ありがとうございました
和泉清憲君
ガハナー杯野球大会無事終えて
お手伝いありがとうございました
高岡君

<ニコニコ会計累積/¥43,000>

がんばるBOX;

丸亀市市長公室松村様を
お迎えて
来週の夜間例会欠席します
ごめんなさい
天野君
ガハナー杯野球大会にご協力
頂きありがとうございました
野球同好会一同
同級生松村さんを講師にお迎え
して
100%出席ありがとうございました
岡田君

<がんばる会計累積/¥118,000>

例
会
場
・
事
務
局丸
亀
市
塩
飽
町
48
|
1
丸
亀
プ
ラ
ザ
ビ
ル
5F

■会長挨拶

ガザ戦闘一時休止 合意

先月、現地の水源からポリオウイルス変異株の形跡が検出されたことを受け、人道支援団体は予防接種開始に向け活動してきた。ガザでは先週、生後10カ月の乳児がポリオに感染したと診断された。WHOによると、ガザでは少なくとも25年間、ポリオ患者が確認されていなかった。

イスラエル当局は、WHOがガザでの予防接種キャンペーンを開始する9月1日からガザの中部、南部、北部で順番に実施。それぞれ3日間、戦闘を休止することで合意した。戦闘休止は現地時間午前6時から午後3時までで、必要に応じて4日目に延長する合意があるという。WHOは3日間でガザに住む幼児の9割(64万人)にワクチンを接種することを目指している。WHOは接種を2回行う計画で、ガザには既に126万回分のワクチンが到着した。1回目の接種の4週間後に2回目の接種が必要となる。世界での発生数 1988年には125か国以上の常在国があり、推定で35万人のポリオ患者が発生していましたが、99%以上減少し、2018年には患者が33人、2022年のWPV(野生株ポリオウイルス)によるポリオ症例数は全世界で30症例となりました。3つのポリオ野生株(1型、2型、3型)のうち、野生株2型は1999年に撲滅され、野生株3型も2012年11月にナイジェリアで発生した後には患者の発生がなくなっています。



■幹事報告

・例会終了後に定例理事会を開催

■理事会報告

①9月10日のプログラム

9月5日 客話 9月12日 新入会員歓迎会(肉の近どう) 9月19日 クラブフォーラム(広報IT・公共イメージDEI委員会)・クラブ活性化セミナー出席者報告 9月26日 休会 10月3日 客話(伊藤スイミングスクール・伊藤智也様) 10月10日 客話(丸亀市長・松永恭二様) 10月17日 観月会(場所未確定) 10月24日 休会

②東京RC訪問(10月30日)→丸亀RCから10名参加

■例会事業;客話;市長公室危機管理課 防災アドバイザー 松村朝生様

<自己紹介>

丸亀市出身。陸上自衛隊に33年ほど勤務後、香川県防災指導監を5年間勤務。その後現職の丸亀市防災アドバイザーに着任し現在に至る。



<能登半島地震発生後の現地派遣>

能登半島地震発生後、丸亀市の親善都市である石川県七尾市に課長を含めた3名で現地入りしました。七尾市にどのようなニーズがあるのかを把握するため、避難所を回り被災者からの声を聴きました。その際に一番多かったのが温かい食べ物を食べたいというニーズでしたので、七尾市の駅前で讃岐うどん2000食を提供させていただきました。

(裏へ続く)

2024.9.5
Vol.62
№7
(2950)

〈能登半島地震の教訓〉

家屋の耐震化、家具の転倒防止の重要性(死者339名の9割が崩れた家屋や家具を起因としている)

飲料水・食料の備蓄・トイレの準備

中でもトイレの重要性を再認識しました。飲料水や食料はある程度我慢できますが、トイレは出来ません。トイレを我慢すると、体調の悪化が著しいことも学びました。

生活インフラの強化

主要幹線道路の確保、上水道の早期復旧、防災訓練の工夫

〈南海トラフ地震への備え〉

南海トラフ地震の発生確率と被害想定

30年以内に70～80%の発生確率で起こるといわれている南海トラフ地震。東日本大震災で発生前の確率が10～20%であったことと比べるといかに高いかがわかります。

地震の想定区域では100～150年周期で巨大地震に見舞われており、前回の南海トラフ地震から78年が経過した今、次の南海トラフ地震発生切迫性が高まっています。

また南海トラフ地震は1000年に1回超巨大地震が発生するともいわれています。その際の震度予想は沿岸部で震度6強、その他地域で6弱、揺れは2～3分(阪神淡路大震災発生時、丸亀では15秒の揺れでも非常に長く感じた人が多かった)にもなります。

丸亀市の想定死者数は1,100人(津波で1,000人、家屋倒壊で100人)。日本全国の想定死者数は323,000人にものぼり、東日本大震災の20,000人や阪神淡路大震災の6,400人と比べると桁違いであることがわかります。

平素からの備え

・ハザードマップの確認(自宅、職場ともに)

・家具の転倒防止及び家屋の耐震化

丸亀市では家具の転倒防止器具の購入補助(上限¥10,000)及び、家屋の耐震化補助(上限¥1,000,000)があります。

・飲料水、食料の備蓄、生活用品(携帯トイレ等)の準備

南海トラフ地震はほぼ発生が確実視されています。想定避難者数は18,300人で在宅避難者も含めて5人に1人は避難生活を送るといわれています。まずは生き残ること。倒れた家屋や家具から身を守ること。そのためには高台避難・家具の固定が大切であり、そのことを踏まえて丸亀市も防災支援を強化しています。加えて食料・水・トイレの日頃からの備えも十分にやってください。

丸亀市を含む香川県は非常に災害が少なく住みやすいところであることは間違いありませんが、例外なく香川県も被害にあうことが想定されます。一人一人が防災マップの確認等、出来ることから防災対策を進めてください。